



第3回

青木コレクション名品展

「歌川広重木像」

個人コレクションというのは、コレクターの嗜好^{しこう}を反映するものです。ひいてはコレクターの人生を物語る資料にもなっているのです。

那珂川町馬頭広重美術館が所蔵する青木コレクションは、塩谷郡熟田^{にいたむら}村(現さくら市)出身の実業家青木藤作^{あおきとうさく}(1870~1946)によって収集された作品群。そのなかでも、今回は珍品といえる作品をご紹介します。

宮城県仙台市出身の彫刻家、翁朝盛^{おきなちようせい}(1906~68)の手による木像です。本作品が制作された昭和12(1937)年といえば、歌川広重の八十回忌を記念して、藤作氏が自ら収集した約40点にのぼる広重の肉筆画のなかから、22点を選抜し掲載した、『愛蔵肉筆画図録』なる画集の刊行を計画していた年(この図録は日中戦争の勃発^{はつぱつ}など折からの緊迫した世情により刊行されなかった)。このことから、藤作氏がこの頃には、広重の肉筆画コレクションを、現在当館に伝わる規模にまで充実させていたことがわかります。

ところで、この木像は三代歌川豊国^{ひろしげしにえ}による「広重死絵」(参考図版)を写したもののなのです。「広重死絵」は、広重が安政5年(1858)に亡くなったとき、彼を追悼して描かれた版画で、作者の三代歌川豊国は、広重と同時代に活躍した浮世絵師です。つまり、描かれた広重像は、おおむね彼の生前の面影を伝えてくれる資料になっているわけです。見比べてみれば、翁朝盛が「広重死絵」を元に木像を制作したことは一目瞭然でしょう。

また、「広重死絵」は青木コレクションに2枚含まれています。翁朝盛は東北を中心に活動した彫刻家です。この木像はもしかしたら、藤作氏の注文によって制作されたものかもしれません。広重の魅力にとりつかれた藤作氏の、収集熱の高まりを物語るような作品です。

※「歌川広重木像」は1月9日(月)まで開催の「青木コレクション名品展」に出品されます。なお、馬頭広重美術館は新年1月2日(月)、3日(火)も開館いたします(4日は休館)。



「歌川広重木像」 翁朝盛作 像高27.0cm
昭和12年(1937) 当館蔵



(参考図版)
三代歌川豊国「広重死絵」当館蔵

(那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 津田卓子)

「秋の押し花」

私たちの身の回りに咲いている山野草を自然のままに押し花にしています。

趣味として興味のある方は、押し花教室「小さな花の会」荒井昌子さんまで

☎0287-92-1389

娘への想い
阿久津美智子さん(矢又)



ミニ ギャラリー



風そよぐ那珂川
荒井昌子さん(矢又)